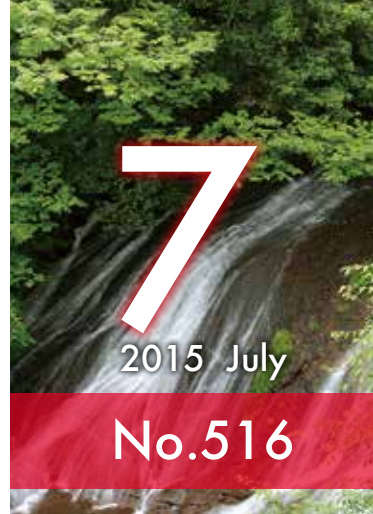




地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

緩和ケアチーム出前講座「エンゼルケア」開催



上野認定看護師による講義



実技の様子

平成 27 年 7 月 8 日（水）18 時～ 人吉球磨の訪問看護ステーション従事者研修の一環として、エンゼルケア（※）についての出前講座依頼があり、当院の上野明美 緩和ケア認定看護師をはじめとする緩和ケアチーム 13 名が、愛生会 長寿支援センター J 棟 2 階にて講義・実技を行いました。当日は人吉球磨 12 カ所の訪問看護ステーションから 25 名が参加されました。受講しての感想を頂きましたのでご紹介します。

私たち訪問看護ステーションは、人吉球磨地域に 13 ケ所あり、それぞれに活動していますが、1 ステーションの従事者数が業務ギリギリの人数で稼働しているために、研修を受講することが難しい状況にあります。しかし、研修を受講したいと思っている従事者は多く、そのジレンマの中で業務をこなしているという状況にあります。

今回、出前講座をしていただけたということで、33 名の事前申し込みがあり、実際 25 名の訪問看護師が受講することが出来ました。今後在宅での看取り件数が増加してくることが予想されるなか、エンゼルケアの講義及び実技を受講することが出来たことは、今後の訪問看護活動に大

きなプラスになったと思います。講義では、死後の変化に対する具体的な処置の方法や、私たちが実際関わる中で、疑問や不安に思っている事を分かりやすく教えていただくことが出来ました。

このような研修会を快く承諾していただいた木村院長をはじめ、緩和ケアチームの皆様、またご協力いただいた人吉医療センタースタッフの皆様にご心よりお礼を申し上げますとともに、今後も継続して出前講座を開講していただくことをお願いしたいと思います。今回は、本当にありがとうございました。

訪問看護ステーション愛生会

入江 祐公



※エンゼルケア：エンゼルメイクとも言われる。人生の最期にふさわしい姿に整えるため、化粧を施したり、医療行為による侵襲や病状をカバーしたりすることで、生前の面影を可能な限り取り戻し、その人らしい容貌・装いに整える作業。

出前講座 好評開催中！

安全管理全体研修会 in 万江病院

万江病院様の安全管理全体研修会で、AEDを用いた研修会の講師に当院の楠木看護師長、鶴口看護師が講師として招かれました。研修会の感想をいただきましたので、掲載させていただきます。

6月22日（月）当院の多目的ホールにおいて安全管理全体研修会が行われました。年2回実施しており本年度1回目の全体研修です。

今回はAEDの取り扱いを含めた救急対応についてということで、人吉医療センターの看護師さん2名を講師に迎え講演を行っていただきました。

実際勤務していても、緊急時には何かとろたえたり、慌ててしまって上手くできなかった。という反省もよく聞かれます。今回は看護師以外のスタッフも参加して、全員がAEDを扱ってみました。見ることも聞くことも

はあってもどう取り扱うのか分からなかったスタッフも「実際に触ってみてよかった」「手順は機械が教えてくれるので、慌てずに実施できた」「緊急時の順番が分かったし、今後は他の人にも教えたりできる」等、参加した皆が積極的に実施できました。

人吉医療センターの看護師さんもととても丁寧に、わかりやすく実技指導をしていただき、また途中スタッフからの質問にも丁寧に返答いただき、実のある研修ができたと思います。最後の感想に「これからも忘れないように反復することも必要だ」という意見があり、機会があれば救急について研修を行っていきたいと思います。今回忙しい中講演に来ていただいた楠木師長・鶴口看護師様に感謝いたします。本当にありがとうございました。

万江病院 瀧上 由美

薬物乱用防止教育講演会 in 人吉一中

7月16日人吉市立第一中学校で薬物乱用防止教育講演会が開催され、当院の下川恭弘副院長が講師に招かれました。「健康を害するもの」という演題で、身近な健康を害する嗜好品や食事、手軽に手に入れることができる恐ろしい薬物まで幅広い内容について、これから大きく

羽ばたこうとする生徒さんが道を誤ることがないようにとの願いを込め1時間あまりお話をさせていただきました。生徒さんから多くの感想をいただきましたので、一部を掲載させていただきます。

私は今回の講演会で改めて薬物依存の怖さ、日々の生活習慣の大切さなどを改めて学び直すことができました。私は正直これまで薬物は「遠い存在」だと思っていました。田舎だし中学生とかいう子どもに薬物を進める機会なんて、まず出会わないと思っていたからです。でも実際は身近に薬物乱用するきっかけはたくさんあるということを知りました。薬物は一回手を出すとやめられない、自分の人生、はたまた人の人生までを棒に振ってしまう

恐ろしさを知ることができました。また後半の病気についての話で普段の何げない食事や睡眠の内容が死につながることを知り、とても驚きました。

これから生徒は夏休みに入ります。夏休みは先生の日も離れ、生徒は個人で活動する機会も増えます。まずは私が薬物、タバコ、アルコールなどを勧められても断る勇気を持ち、また健全な生活を心がけます。本日は講演本当にありがとうございました。（2年生）

天使のちえぶくろ in 福島保育園（錦町）

大切な子ども達の命を守るために、年に1回 JCHO 人吉医療センター「天使のちえぶくろ」の方を講師にお迎えし、園児の家族と保育士と一緒に学び始めて4年になります。

準備していただいた資料で、子ども達が感染しやすい病気の原因から観察のポイント、ホームケア等詳しく、わかりやすく、説明してください。

私は保育士として働いている以上、手洗いの大切さは十分わかっているつもりでしたが、ハンドチェッカーを体験したときの自分の手の汚れには大変驚きました。正しく手洗いをしなければと反省しました。

「骨が何本折れても、心臓が止まってしまうと命はありませんよ」と、胸骨圧迫と人工呼吸を繰り返すことの大切さもお話されました。救命の手順の実技を毎年繰り返し体験することで、全く知らなかったときの自分よりは命を繋ぐ手段の行動ができるのではないかなと思えるようになりました。「赤ちゃんの場合の胸骨圧迫はどれくらい

の圧をかけるのか」なども詳しく教えていただきました。

また、水の事故はプールや海、川だけではなく、特に0～1歳の溺れる場所の

多くは家庭の浴槽であることを、今回参加されていない保護者へ「浴槽の残り湯をなくす、子どもが一人で浴室に入れない工夫をする」ことを伝えたいと思っています。

毎回講座を聞く度に自分が忘れていたことを反省し、これからは「いざ」という時に役立つように繰り返し学びたいと思います。

お忙しい中、時間をとっていただき、大変感謝しています。ありがとうございました。

福島保育園 保育士



院内感染対策研修会

第二種感染症指定医療機関として 備えておくこと



人吉医療センター防護具



MERS 侵入に備え、日本では行政と連携した医療体制の整備が行われています。中東はなんとなく遠い存在でしたが、韓国となると水際対策もより現実的なものになります。

当院は、二類感染症（ジフテリア、SARS、MERS、ポリオ、結核、鳥インフルエンザ H5N1・H7N9）新型インフルエンザ等感染症の診療を担当する医療機関として都道府県知事の指定を受けた病院です。当然、MERS（疑い）患者の診療にあたることになります。

早速、行政と MERS（疑い）患者の搬送支援体制・搬入経路の打ち合わせを行い、感染拡大防止体制を確認しました。院内では、MERS（疑い）患者の診療体制・検体採取方法・個人防護具の装着・感染症病床への入院措置等の対応について周知し備えています。

患者と医療従事者、双方を感染から守るために、発生病国からの帰国や患者との接触があり、発熱・咳などの呼吸器症状等がある方は、最寄りの保健所へあらかじめご相談され受診されることをお願いしたいと思います。

感染管理認定看護師 別府 るみ

TeamSTEPPS への挑戦

医療の成果と患者安全を高めるために チームで取り組む戦略と方法

医療事故の 66% はコミュニケーションエラーが原因と言われています。

そこで、コミュニケーションの確実性を高め、チームワークを改善することにより、医療の質や患者安全の成果につなげる事を目的に研修会が開催されました。

研修では、体験型研修を通し、改めて『コミュニケーション』の重要性を感じ、自分の行動をどう改善する事で、よりよいチーム医療へとつながるのかを考える機会となりました。

「伝える」「提言する」などメッセージの本質を伝える為には『スキル』が必要です。

その為には、日々の実践を内省し、スキル向上に努めなければなりません。そして、職員 1 人ひとりが高い職能意識と対話能力を持ち、根拠に基づく医療、多職種のチームによる患者本位の医療を目指し、誠実に実践していく必要があります。

その為に、『患者の安全が第一 安全はすべてに優先される』事を再度、心にとめ医療安全推進委員として、今後も病院システムや環境整備への協力を行っていききたいと思っています。

ICU 看護師 坂本 恵子



医療安全院内研修会の様子

～ 限度額制度について～

この制度は、各健康保険の窓口で所定の手続きをすることにより、1 か月の医療費（保険内負担金）の支払いが所得区分によって決められた自己負担の限度額までになる制度です。

今までは入院時のみの適用でしたが、H24 年 4 月 1 日より外来でも利用することが可能になりました。入院中の高

額な治療費だけでなく、外来での抗がん剤治療や放射線治療等で治療費が高額になった場合にも利用することができます。自己負担の限度額は年齢や所得区分によって異なっており、**加入されている保険者が申請窓口**となっています。

何かご不明な点があれば、加入されている保険の申請窓口、または当院医療相談員までお問い合わせ下さい。

(70歳未満の方) 入院・外来		(70歳以上の方) 外来のみ ※2	
所得区分（標準報酬月額）	自己負担限度額（医療費）	区分	自己負担限度額（個人ごと）
ア：83万円以上	252,600 円 + (総医療費 - 842,000 円) × 1%	一定以上所得者	44,400 円
イ：53万円～79万円	167,400 円 + (総医療費 - 558,000 円) × 1%	一般世帯	12,000 円
ウ：28万円～50万円	80,100 円 + (総医療費 - 267,000 円) × 1%	非課税世帯（低Ⅰ）	8,000 円
エ：26万円以下	57,600 円	※1（低Ⅱ）	
オ：非課税世帯 ※1	35,400 円		

※1：減額の手続き（市町村民税非課税の方）には市町村の非課税証明が必要です。

※2：入院は別となります

☆申請後は各医療機関の会計窓口への提示をお願いします☆

救急カンファレンス（ドクターヘリ症例検討会）開催

6月17日、消防本部におけるドクターヘリ症例検討会が実施されました。これは年に1度、熊本赤十字病院のドクターヘリフライトスタッフが県内各消防本部を1カ所ずつ訪問し、ヘリ症例の検討会を行ってその改善点等のフィードバックを行い、ヘリの更なる有効活用を目指すという取り組みです。今年で3回目となる今回も、日赤から4名のフライトスタッフを迎え、人吉医療センターはじめ管内医療機関や、近隣消防本部からも多くの参加者が集まりました。検討会を進めて行くなかで、消防側と病院側との正確な情報伝達についての課題や、県全体的にヘリのキャンセル率が高県と比較するとまだまだ低く、つまりそれはオーバートリアージを恐れ、要請自体を躊躇してしまっているという現状がみえてきました。フライトドクターの田代尊久医師の講話では、人吉下球磨地区は県内でも特

に時間を要する地域であるため、119番通報の内容から重篤事案と判断した時点で、出動要請をすることの重要性を特に強く述べられていました。また、要請手順の再確認や留意事項等を教授いただき、とても有意義な検討会となりました。



ドクヘリと防災ヘリの2機で相互に役割を補完し合うという全国的にも希少かつ恵まれた環境のなかで活動出来ることに感謝しつつ、今後の活動においてこの熊本型ヘリ救急搬送体制を最大限に活用し、人吉球磨地区の救命率向上に努めていきたいと思っています。

人吉下球磨消防組合 西 明日香

皆様、初めまして。

人吉市と隣接する鹿児島県伊佐市の北薩病院よりご挨拶申し上げます。

平成16年に久七トンネルが開通して以来、くねくねと曲がった峠道から開放され、人吉市へは伊佐市から30分程度で快適にアクセスできるようになりました。

私事になりますが、30年位前の入局直後の医局旅行で人吉市を訪ね、美味しい食事や楽しい球磨川下りに興じました。それ以来、歴史豊かで風情のある街並みを楽しみに、大好きな人吉市に幾度となくお邪魔いたしております。

人吉市への親近感は決して私に限ったものではなく、より高度な医療が必要となった患者さんやそのご家族に紹介先医療機関の希望を尋ねると、決まって人吉医療センターが上位に登場してきます。これは、単に地理的に近いという理由だけでなく、伊佐の人々が人吉市を生活圏の一部と認識し、その文化に親しんでいるからだだと思います。でも、選ばれる最大の理由は、高度な医療機器が整備された環境で頼もしい医療スタッフに安心して診療して貰える、人吉医療センターの質の高い医療レベルを皆が熟知しているからです。

登録医リレーエッセイ Vol.19

さらに、頭部外傷や脳出血、急性心筋梗塞などの救急患者さんの受け入れを人吉医療センターにお願いすると、いつも即座に快諾して頂いています。しかも患者さんの到着時に専門医による診療がすぐに行えるよう準備を整えて待機して頂いており、患者さんやご家族はもちろん、当院の職員も感謝しています。

この場をお借り致しまして、人吉医療センターの先生方をはじめ、いつも救急対応等でお世話になっておりますスタッフの方々に、改めまして御礼を申し上げます。

現在、国を挙げて地域医療構想の策定が進められているところですが、北薩病院では、地域医療を確保していくために、診療体制のさらなる充実に努めるとともに、人吉医療センターとの連携強化を進めていきたいと考えております。今後ともお付き合いのほど宜しくお願い致します。



鹿児島県立北薩病院長
小寺 顕一

※ 時間外休日出入り受付について

7月1日より、患者さん以外で土日祝日及び平日（20時～翌朝6時）に入館される方について、入館時に受付をお願いしております。

- 目的 入院中の患者さん及び病院の安全確保と防犯対策
- 時間 土日祝日及び平日 20時～翌6時まで
- 対象 スタッフ・患者さん以外で病院に入館する方
- 受付方法 本館1F時間外受付（防災センター）において右記の申請書を記入。こちらからお渡しする、日付を記載した入館申請済みシールを洋服に貼って入館をお願いします。

時間外休日出入り申請書		
「救急」「せき」「下痢」「嘔吐」などの症状がある場合、 搬送されている方、搬送のない方の 出入りはご遠慮いただいております。		
※ 申請書		
施設名	申請時刻	提出予定時刻
月 日	時 分	時 分
※ 申請書		
申請 者		
入院患者氏名		
病室番号		
申請時刻		
提出予定時刻		
※ 申請理由		
記入 者 氏 名		
印 影		

徳田安春先生 教育回診&レクチャー

去る7月15、16日にJCHO本部総合診療教育チームリーダーの徳田安春先生が来院され、2日間にわたり講義、教育回診が行われました。その中で研修医1年目の堀之内、佐野、古閑が症例提示をさせていただきました。私はスライドを作成し症例提示をするのは初めての経験であり難儀いたしました。堀川先生に指導して頂き無事発表を終えることができました。この場を借りて御礼申し上げます。講義内容は私達が提示した症例の現病歴、既往歴、服薬歴、生活歴、現症などの情報から何を考慮するのか、どのような疾患の可能性があるのかなどを丁寧に考え、徳田先生とディスカッションしながら進めていくというものでした。私が気付いていなかったことや、さらに追加した方がよい身体所見や検査などを症例提示中に指摘して頂き、自分の至らなさを痛感すると共にとても勉強になりました。

回診では徳田先生が患者さんに問診、身体診察を行っているところを見学させて頂き、患者さんに聞くべきことや身体所見の取り方など解説して頂きました。また、珍しい所見があるときは、私達にもその所見を取らせて頂き貴重な経験となりました。

この2日間で診療に活かせる知識を多く得ることができました。今回得た知識を活かしながらこれからの診療に励みたいと思います。



熊本大学医学部附属病院 研修医（協力型）1年
古閑 丈裕

第125回清流ハートクラブ
(心臓リハビリテーション)開催

6月25日に第125回清流ハートクラブを開催しました。

今回は「救急対応について 健康診断・予防接種の受け方」と題して当心臓リハビリテーション室の中津看護師より講演、AEDを使った心肺蘇生法の実演を行いました。

今回は、患者さんより「病院にかかっているが健康診断を受けた方がいいのか？通院中であるが予防接種を受けてもいいのか？」など質問があり、健康診断・予防接種の受け方なども加えての講演となりました。

まず、心疾患の救急を要する症状、対処法、救急車の呼び方、準備するもの・準備しておくもの（救急時の連絡先）や定期健診の大事さ等についてお話がありました。

次に「君にしか救えない大切な命」というビデオ映像で、早期心肺蘇生法の大事さを確認し、実際的心肺蘇生法の講習・実技を行いました。毎回行われている講習ですが、分かったつもりで忘れていたり、実際その場面に立つとわからなくなったりすることもあります。今回の講習で実技も交え、再確認できたかと思います。

今後も、いざというときに備えて皆さんへの啓発を続けていければと思います。

心臓リハビリテーション事務局 金栗 由佳

地域医療研修 in 与論島

地域医療研修として6月1日から1か月間、与論島に行って参りました。与論島は沖縄の北東20kmの所に位置し、一周23km、人口6000名弱の小さな島です。鹿児島空港からプロペラ機に乗り、1時間20分ほどで着きます。車の渋滞で飛行機に乗り遅れた他病院の研修医の方は、やむを得ず関東から4人乗りのセスナで来られていました。

私が研修させて頂いた病院は与論徳洲会病院で、与論島唯一の総合病院とのことです。病床数は一般病床40床、療養病床40床の計80床で、常勤の先生は外科1名、内科1名の2人のみで、専門医へのコンサルトは月に2回ほど特別診療として島外から来て頂いた先生にまとめてコンサルトするといった形でした。その日まで待てないような緊急性の高い症例の場合はドクターヘリで沖縄へ搬送したり、ネットでCTなどの画像を送り電話で直接コンサルトしたりするなどして対応されていました。

研修内容としては、大きく外来と病棟業務に分けられ、病棟の患者さんはすべて研修医が主治医として受け持ちます。治療も自分で調べて実行します。もちろんそれでは心配なことも多いので毎朝7時半から常勤の先

生とカンファを行い、すべての患者さんの状態と治療方針の確認を行います。自分の場合はそれでも分からないことだらけだったのですが、同時期



筆者：左

に研修に来ていた他病院の研修医、看護師、薬剤師、リハビリ、栄養士、事務の方など多くの方にも支えられ、なんとかやっていくことが出来ました。

今回の研修で、主治医としての責任の大きさを実感することができました。外から見ているのとは自分でやるのでは全く見える景色は違って、やはり自分でやらないと身につかないと思いました。同時に主治医として患者さんを持つことの面白さ、やりがいを実感でき、大変勉強になった一か月間でした。

正直一か月間きつい時もありましたが、本当に行きよかったです。お世話になった方々、本当にありがとうございました。

熊本大学医学部附属病院 研修医（協力型）2年 末吉 博之

職域・愛好ナイターソフトボール大会



職域・愛好ナイターソフトボール大会に参加しました。毎年この梅雨の時期に行われるこの大会も、今年は6月3日初戦の予定が雨で延期、延期、延期となり、なんと6月29日までできないという異例の事態。みんなモチベーションを維持するのに大変でした。

さて、試合で目立っていたのは、とても73歳には見えない伸びのあるストレートとチェンジアップとの絶妙な緩急で三振の山を築いた元施設課 中村末太郎さん、バッティングはまったくダメでもグローブだけが活躍していたりハビリの田上さん、早起きソフトのチームに入って本格的にやっているのになぜか肩が痛いと言振の言い訳をしていた総務企画課 木

下さん、仕事と同じく堅実なバッティングしていた連携室 山田さん、女の子なのにまったく相手ピッチャーから手加減をしてもらえなかった7階病棟看護師の 尾方さん、毎回恒例の「黄色い？黄土色？群青色？」の声援で試合を盛り上げてくれる緩和病棟看護師の藤田さんとCRCの岩崎さんなどと笑いの絶えないコールド負け試合でした。

あっ、忘れていました。でも、なんと言っても、有言実行と言わんばかりに予告ホームランを打った僕がやはり一番目立っていました。

仕事や諸々のストレス発散で大笑いしたい方は是非応援に参加してください。

視能訓練士 松村 綾祐

ネパール大地震義援金ご協力誠にありがとうございました！

H 27 年 4 月 25 日に発生したネパール西部を震源とするM 7.9 の大地震について、院内で募金を案内し、80000 円の義援金が集まりました。皆さまからの義援金はネパールに現地事務所を持つ ASIA をはじめとする NGO を通じネパールへの救急物資等のために活用されます。

ご協力、ありがとうございました。

人吉医療センター災害実動訓練おしらせ

平成 27 年 8 月 30 日（日）人吉市総合防災訓練と連携し、人吉医療センター災害実動訓練を行います。当日は地域の行政機関や医療機関をはじめ、人吉医療センター地域協力会、アマチュア無線クラブの皆様にもご協力頂きます。当院は人吉球磨地域の災害拠点病院に指定されており、災害時の医療拠点となるべく、研鑽して参ります。当日は騒音及び正面玄関、本館棟 1 階を主に使用するため、入院中及び来院の皆様にご迷惑をおかけ致しますが、ご理解ご協力の程よろしくお願い致します。



昨年の訓練の様子

新 任 紹 介



いわなが めぐみ（クラーク）

最終卒業校：熊本県立東稜高等学校

趣味：手芸、パン作り

生活信条：挨拶、掃除、素直

性格：おもしろい事が大好き。でも少しネガティブ

自分のコマーシャル：一生懸命頑張ります、よろしくお願いします

7 月の勉強会報告

7月1日(水)第75回乳腺カンファレンス

「乳癌の放射線治療」

熊本大学医学部附属病院 放射線治療科 助教

齋藤哲雄先生

7月16日(木)第8回心血管医療連携カンファレンス

「当院における心臓リハビリテーションの取り組み」

人吉医療センター リハビリテーションセンター

田上 智久 理学療法士

「虚血性心疾患の最近の話題」

熊本大学大学院生命科学研究部 循環器内科学 准教授

掃本 誠治先生

7月のフレッシュマンセミナー報告

7/ 2 赤木 知帆「セルセーバーについて」

7/ 9 横田 芙蓉子「パワースポット」

7/16 松村 綾祐「夏の風物詩について」

7/23 向江 大樹「ポケモンの世界」

7/30 原 真理子「マスクマジック」